

企画展「古代へのとびら2020」

とっておき埋文講座① ー富山県の旧石器時代から近代までの歴史を発掘出土品から学ぶー

はじめに

当センターの春の企画展「古代へのとびら2020ー富山県の旧石器時代から近代までの歴史を発掘出土品から学ぶー」では、初めて歴史を学ぶ子供たちが楽しく学べる展示をコンセプトとしています。

今年度は解説パネルに各時代を知る上で大切なキーワードを明示しています。例えば、弥生時代のキーワードには「稲作」があります。稲作に関する農耕具などを展示することで、その時代の様子がイメージできるようになっています。

また、今年度の特設コーナーは「コレナニ!? 遺物コーナー」です。当センターが所蔵する数多くの遺物の中から、一見「これは何!?!」と思うものや、遺物の正体や解説を知って「なるほど!」「本当に!?!」と納得や驚きのあつものを7点厳選して展示しています。投票コーナーを設けましたので、驚きや面白さなどを感じていただけたら、◎遺物に認定してくださいね。

他にも今年度の新たな取組として、歴史をより詳しく学ぶための時代解説シートも用意しました。富山県の史跡やちょっとマニアな展示品についてさらに深く学びたい人におすすめです。



旧石器時代

ウワダイラ^{あい}遺跡（南砺市）と直坂^{すぐさか}遺跡（富山市）、立美遺跡（南砺市）から出土した石器の中から、富山県指



定文化財（考古資料）に指定されているものをピックアップしました。石器の形や美しさからもその価値が十分に伝わってきます。

縄文時代

縄文時代は約13,000年続き、時期も草創期から晩期まで6期に分かれます。今回は草創期を除いた早期から晩期までの5期の土器を展示しています。また、深鉢や浅鉢など、様々な形や大きさのものを選びました。各時期を通しての形や文様の変化、多彩さを感じることができます。もちろん、土器だけでなく石斧や石皿などの石製品、祭祀で使用された土偶など、縄文人の生活をイメージできるものも展示しています。



弥生時代

大陸から稲作農耕の技術が伝わり、米作りが始まった時代ということで、





稲作に関する出土品を中心にピックアップしました。おなじみの弥生土器や石包丁はもちろん、当時のお米（炭化米）も展示しています。

古墳時代

古墳時代のキーワードといえば、まず「古墳」。王や豪族の富と権力の象徴である鉄剣や銅鏡、玉類など、古墳の副葬品を中心に選びました。

他にも、渡来人によって技術が伝えられた須恵器や弥生土器の流れを組む土師器もこの時代を象徴する遺物として欠かせません。



古代

仏教が伝来し広まった時代であることが分かる出土品として、瓦塔や印仏を取り上げました。瓦塔は寺院の「塔」がモデルとなっています。印仏は座仏を陰刻したもので、背面につまみがついていることから、スタンプのように使われたと考えられます。



また、文字資料が増えるのもこの時代の特徴です。木簡や硯、墨書土器などをそろえてみました。



中世

武士が身につけていた兜や刀の鍔などの武具、鉄砲の部品である火銃や鉛玉をピックアップしました。また、喫茶の習慣が始まったのもこの時代の特色の一つ。天目茶碗や茶壺など茶道具も展示しています。



近世

江戸幕府が開かれてからは政治が安定し、産業や交通の発達、経済の発展をもたらしました。各地でも様々な特産品や地場産業が生まれ、各地との交易もさかんになりました。

そのことを物語る一例として、富山の越中瀬戸焼や佐賀の唐津焼や伊万里焼など様々な焼き物をピックアップしました。富山県も他地域との交易がさかんであったことがうかがえます。



立山信仰

令和2年3月16日付で国指定重要有形民俗文化財「立山信仰用具」に



160点の資料が新たに追加指定されました。今回の展示からも富山県民の立山信仰へのかかわりの深さが分かります。立山曼荼羅は吉祥坊本（レプリカ）を展示しています。佐伯有頼が熊を追うところから、地獄や極楽など立山開山の物語が色彩豊かに、立山信仰の世界観がとてもよく伝わってきます。

近代

旧県会議事堂跡の瓦や、薬瓶、麦酒瓶、戦中の訓練時に使用された実砲などを展示しています。これらの展示品は長い歴史の中では最近のものですが、未来へ伝える大切な文化財です。



おわりに

今年度も小・中学生が教科書等でよく目にする定番の出土品から歴史に詳しい人も興味を引く出土品まで、バラエティに富んだ内容となっています。

来館された方に富山県にある数多くの遺跡や貴重な出土品の魅力を感じていただくとともに、歴史や考古学により一層興味関心をもっていただけるような展示にしました。ぜひ当センターへお越しください。ご来館をお待ちしています。

（小嶋 剛）